



2014～15 年度
国際ロータリー会長

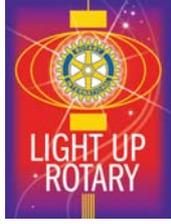
ゲイリー C. K. ホアン

Weekly Report Niigata



2014～15 年度
新潟ロータリークラブ会長

高橋 秀樹



ロータリーに輝きを

2014～15 年度 国際ロータリーのテーマ

新潟 RC 11 月第 4 例会 (2014.11.25) No.3065

(1) ロータリーソング「それでこそロータリー」 斉唱

(2) 高橋 秀樹会長挨拶

先週は、教育についてときどき口にされる「スパルタ教育」とは、本来どのようなものだったのか、ということについてお話ししました。本日は、先週の予告通り、そのスパルタ教育によって育成された人々がどのような活躍をしたかということについて、ある出来事を紹介したいと思います。

紀元前 480 年、つまり、今から 2494 年前に、中近東全体を領土としていたペルシア帝国がギリシアを征服しようと遠征したことがありました。これがペルシア戦争という出来事ですが、当時の言い伝えによると、260 万人にも及ぶ大兵力がギリシアに向かったと言われています。もちろんこの数字は、かなり誇張されたものだったと思われ、実際の実質兵力はもっと少なく、20 万くらいだったのではないかと推測されたりしていますが、それでも当時のギリシア人からすれば型破りの規模だったため、普段はいくつもの小国にわかれて群雄割拠していたギリシア人たちも、このときばかりは一つの連合軍にまとまってペルシア軍を迎え撃ちました。

圧倒的に多数の敵を迎え撃つため、数の力を有効に使うことができない場所で戦う作戦が検討されましたが、その候補地となったのがテルモピュライというところでした。ここは北からギリシアの中心部に侵入する際に必ず通らなければならない場所なのですが、山の斜面が海の近くまで迫っていて、道幅が極端に狭くなっており、一番狭いところで 3 メートル程度しかありませんでした。どれほど多くの軍勢であろうと、一度に投入できる兵力が限られてしまいます。

しかし、ペルシア軍は、ギリシア人にとって大変都合の悪い時期にこの場所に迫ってきました。紀元前 480 年 8 月中旬は、4 年に一度のオリンピックの祭が開催されており、軍事行動を控えるべき時期になっていました。現在ではオリンピックはスポーツの国際的イベントになってしまっていますが、当時は神を祭るための厳粛な祭典でした。さらにスパルタでは別な種類の祭も重なっており、決して軍を動かしてはならない時にあたっていました。しかし、この二つの祭の期間が終わるまで待っていると、ペルシア軍はテルモピュライを通り過ぎてしまうことになります。身動きのできない深刻な事態となりました。

ここでいち早く行動に移ったのがスパルタ人でした。スパルタ人の王であったレオニダスは、300 人だけの先発隊を率い、自らテルモピュライに向かいました。ギリシア連合軍の取りまとめの立場にあったスパルタが動けば、他のギリシア諸国も意を決し、それに倣うだろうと考えてのことでしたが、当時は、神々に対して不敬があれば大変な災いが降りかかってくると誰もが深く信じていた時代ですから、これは大変な勇気の要る重大な決断でした。結果的には、レオニダスの考え通り、他のギリシア諸国も小規模な先発隊を出し始め、ペルシア軍が通過する前に、テルモピュライの関門に布陣することができ、ギリシア連合軍全体で 5200 人ほどが戦闘に臨みました。それでも兵力の差はあまりに大きかったのですが、祭の期間が終わればギリシア各国からそれぞれ本隊が駆けつけてくるから、それまでテルモピュライの関門を支えることができればよいということだったようです。

他方、ペルシアの王であったクセルクセスは、圧倒的な兵力の差もあったので、ギリシア人はすぐさま降伏するか、たとえ戦闘になってもあつという間に決着がつくだろうと考えていました。しかしこの予想は大きく裏切られることになります。戦闘が始まると、どれほど激しく攻撃してもギリシア人の軍勢を破ることができず、初日の戦いが終わります。二日目になっても状況は変わらず、ギリシア人の防衛体制は鉄壁でした。このまま事態が進めば、ギリシア各国から本隊が到着するまで支えられたかもしれません。

しかし、二日目の夜に大きく状況が変わります。地元のギリシア人からの情報により、峠を迂回してギリシア人守備隊の後ろにまわることのできる山道があることが、ペルシア王に知られてしまうのです。二日目の夜から三日目の朝にかけて、ペルシア軍は逃げ道のない峠道の両側からギリシア人軍勢を挟み撃ちにする体制を整えようとします。この布陣が完成してしまえば、確実に峠のギリシア軍は全滅することになります。

ペルシア軍の動きは三日目の明け方にレオニダスに伝わりました。ギリシア軍は急遽会議を開いたのですが、あくまで踏み止まって関門を守るべしという意見と、結果は明らかなのだから撤退すべしという意見に分かれてまとまらず、結局連合軍は解体され、どうするかそれぞれ各国軍で判断するということになりました。もっとも、別な伝えでは、レオニダスが各国軍に撤退を命じた、とも言われてい

ます。

一夜明けると、ほとんどのギリシア軍はテルモピュライの峠から撤退していました。しかし、レオニダス率いるスパルタ兵 300 人とテスピアイという小さな町から来た兵士たちだけは自ら望んで留まっています。レオニダスは、ギリシア人たち全体から託された部署を自ら放棄することはできないと考え、配下のスパルタ兵 300 人もそれに同調し、その使命に殉じたとのことです。

水も漏らさぬ狭み撃ちの体制を整えたペルシア軍は、三日目の戦闘を始めるに際して、レオニダスに投降を勧めたと言われています。ペルシアは、異民族であっても能力のある人々は積極的に配下に加え、立身出世のチャンスを与えることで知られていました。しかし、レオニダスはこれを拒否し、朝の 10 時ごろから戦いが始まります。今度こそあつという間に終わると思われた戦闘でしたが、ギリシア人の抵抗は激しく、この戦いでペルシア王クセルクセスの二人の兄弟が戦死することになります。圧倒的な戦力差があっても最後までギリシア軍は降伏せず、全滅します。スパルタ人で生き残ったのは伝令として戦場を離れていた者一人だけでした。

危機的な状況にあるリーダーとしてのレオニダスの二つの決断をどのように評価するか、おそらく皆さんの評価は分かれると思いますが、いずれにせよレオニダスと 300 人のスパルタ兵の行動は、ギリシア人全体に対し、そして、クセルクセス王をはじめとするペルシア帝国の軍勢に対し、いろいろな意味で大きな衝撃を与えました。そして一カ月ほど後に、ギリシア連合軍は再び地形を活かしつつ、ペルシア軍と大きな戦いを交え、勝利を得ることに成功します。これが転換点となって戦況が変わり、ペルシア帝国はギリシア征服を断念することになるのです。

現在でも、レオニダスと 300 人のスパルタ兵士の行動はギリシア人の誇りとするところで、古代スパルタの遺跡の入口にレオニダスの像が立っています。そして、テルモピュライの戦いは、ギリシア人のみならず、ヨーロッパ人全体の記憶に深く刻まれて語り継がれ、何度か映画化もされています。戦争や無茶な玉砕行為が美化されるようなことがあってはなりません。レオニダスの行動は、危機的な状況の中でのリーダーの決断について、良くも悪くも考えさせられるところが多いでしょうし、スパルタ兵 300 人は、国の総力を結集した人材育成がどれほどの力を示し、そしてそれが数千年の後まで人々の脳裏に焼きつくものであることを表していると思います。

(3) 委員会報告

・小林 悟 SAA より

年度当初、握手タイムは1分程、同じテーブルの方とだけとお願い致しましたが、来月よりは会長が小さい鐘を鳴らしますので、それを合図に終了願います。また、お食事の内容につきまして、ご希望がございましたら、SAA までお申し出ください。

(4) 青少年育成基金寄付発表(山田 隆一委員長)

森井 満男君

(5) ニコニコボックス紹介(村松敦委員)

・山本 正治君 先日、おじいちゃんの小飯田さんの手を引いた2人の御嬢さんにお会いしましたので。4才と2才の可愛い子ちゃんでした。

(6) 得永 哲史君へ

マルチプル・ポールハリスフェローピン贈呈

(7) 幹事報告(小林 建幹事)

・今週の土曜日29日は、IM が開催されます。当クラブからは36名の登録を頂きました。13:00受付13:30開会 会場はイタリア軒です。

・ロータリーの為替レートが12月より現行の106円から112円に変更になります。

(8) 会員スピーチ

「防災減災・文化財の耐震診断と改修」

清水建設㈱新潟営業所 所長 森井 満男 君



コ ラ ム

日本海エル・エヌジー(株)

八 島 進

「新潟生活を満喫しています」

昨年 6 月に仙台から新潟に赴任して、早や 1 年 5 ヶ月が過ぎました。この間、新潟ロータリークラブの皆さまとの交流・情報交換等を通じまして、お陰さまで、大いに新潟の生活を楽しましております。

私はこの 40 年間、仙台以外での生活経験がほとんどありませんでしたので、新潟の食文化・伝統文化など、これまでに無い新鮮な、魅力ある、楽しい刺激を受けております。

特に県内の「温泉めぐり」は、すでに約 30 ヶ所ほど経験しましたが、私の趣味として、これからも 100 か所を目標に、新潟県内およびその近県を巡り歩きたいと思っておりますので、皆さまからの温泉の情報提供を宜しくお願いいたします。

(9) 本日の出席率 60.22 %

(2週間前メイク後 85.27 %)

12月2日の例会予定

「年次総会開催」

新潟ロータリークラブ会員専用ホームページアドレス

<http://www.niigatarc.jp/>

第8回 料理研究会報告「俺のハンバーグ」

11月26日、8回目となる料理研究会が行われました。しばらく魚介類が続きましたので、久しぶりに肉料理をしてみよう、ということになりました。そこで思いついたのが「ハンバーグ」。初参加の渡部剛士さんを交えて、総勢9名で挽き肉コネコネに挑戦しました。

スーパーで売られている「合挽き肉」とは何か、タマネギを効率的にみじん切りにするにはどうすればいいのか、なぜハンバーグを整形するとき、パンパンと空気を抜くのか、などなど、料理の基本となるポイントを教わりつつ、班に分かれて調理が始まります。

このところ、成長著しいと評判の我々は、ハンバーグの下ごしらえ、ミネストローネの準備など、どんどんと作業を進めていきます。

ところが、「コールスロー」を作る段階で、担当講師より「キャベツの千切り」の抜き打ちテストを行うとの通知が。

メンバー、かなり困惑したものの、どうにか指も切らず、全員合格点を得ることができました。(得点は非公開ですが)おいしそうな焼き色と、香ばしい香りとともに、みんなそろって試食しました。やはり手作り、できたての料理は格別です。

次回開催は1月。ご要望により「土鍋で作る炊き込みご飯」に決まりました。



キャベツテストに挑む会長



ハンバーグをこねる横山さん



焼き加減チェック



渡部さん初参加